

浜松情報局

遠州版
FM

〈広告〉
広告紙面のお問い合わせ
中日新聞専属代理店
株式会社 折込広告社
053-469-0550 (代)

輝き夢追人

浜北さくら台病院
副院長 大村久美子さん



「病院で働くスタッフの心身のケアのためヨガ教室を開催しています。気持ちに余裕があれば周囲に優しくできますから。私も体調がよく、毎回楽しみにしています」と大村先生

高齢者や介護する家族を支え、 安心・安全な社会の実現に向けて

1988年の開設以来、高齢者医療に取り組んできた「浜北さくら台病院」。認知症の人や、急性期病院での治療を終え引き続き集中的なケアが必要な人たちに、安心安全な医療および看護、介護リハビリテーションを提供している。超高齢社会となった今、医療や介護に頼らず、最後まで自分らしく自立した生活を送りたいと願うのは当然のこと。だからこそ、あれ？と迷った時に相談できる場所があれば、3年前から「もの忘れ外来」をスタート。副院長の

大村久美子先生は、講演会などで認知症の啓蒙活動を行い、早期発見、早期治療によって症状を改善したり、進行を遅らせたりできると広く呼び掛けてきた。

「どんな病気か分からず怖いと思っている方が多いと思いますので、まずは正しく理解することが大事。実際に、物忘れが目立つ、慣れた場所ですら迷う、約束の時間を間違えるなどを繰り返すと、ご本人はもろに家族も戸惑い、不安になります。もの忘れ外来では、認知症の診断や原因を見極め、早期



企業や地域包括支援センターからの依頼で認知症についての講演を行っている

対応によって適切な治療や予防を行います。またご本人だけでなく支えてくださるご家族にも寄り添って心のケアを行います。」と大村先生。

また以前からリハビリテーションとしてドライブシミュレーターを使った運転支援プログラムを行っており、もの忘れ外来でも導入が始まった。運転寿命を延ばすことは健康寿命を延ばすことでもあり、高齢者が運転をやめると要介護状態になる危険性が約8倍に上昇するという調査結果も発表されている。



リハビリや高齢者のためにドライブシミュレーターを導入。柴田代さんを中心としたリハビリチームで支援する

「病気で働くスタッフの心身のケアのためヨガ教室を開催しています。気持ちに余裕があれば周囲に優しくできますから。私も体調がよく、毎回楽しみにしています」と大村先生

でも、出来ることに目を向け住み慣れた地域で自分らしく穏やかに暮らし続けることが目標です。カフェでは家族同士が情報交換することもあり、医療とはみななで支え合うものだと感じます(大村先生)

医療・介護福祉が連携し、安心して暮らせる地域づくりを進めている浜北さくら台病院は、高齢者の健康と、介護を担う家族の大きな支えになっている。